

南あわじ市 平成 24 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(負担金用)

基本事項

		整理番号	624
事業名	食のブランド「淡路島」推進協議会負担金	予算科目	会計 一般会計・1 款 農林水産業費・6款 項 農業費・1項 目 農業総務費・2目
担当部課名	農業振興部 農林振興課		
電話	0799 - 43 - 5025		
該当する項目について「 」を選択		団体負担金	事業負担金

Plan & Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(団体の設立趣旨、活動目標など) 兵庫県、南あわじ市、淡路市、洲本市、淡路島観光協会、淡路島くにうみ協会、3市の商工会、JA、酪農協、水交会、淡路島水産加工業協同組合等で構成する食のブランド「淡路島」推進協議会にて、南あわじ市(淡路島)の農水産物の生産者、加工業者、流通業者等、さまざまな主体が連携・協力して豊富な農水産物を活かし、四季を通じた「淡路島」の魅力を発信することにより、食のブランド「淡路島」のイメージアップと消費拡大、地域の魅力づくりをすすめ、農水産業や地域の振興を図る。	
	負担金の概要	経費を市が負担する理由(加盟理由、法令、又は市がすべきどのような事業を代わって実施しているのか) 島外から見れば3市あっても淡路島は1つに見える。島外に淡路島をPRするためには、3市が1つの方向性を持ちながらそれぞれの特性を活かしたPRをすることが重要になる。そこで、淡路島を1つとして事業推進するには、県が事務局を務めることによって、横断的な連携がとれる最も有力な方法であると言える。食のブランドとしての「淡路島」のイメージを確立することにより、農水産物、加工品、観光等、淡路島全体に効果が期待でき、淡路島の農水産物の生産拠点である本市にとっても効果は大きいと言えます。	
		負担金算出方法(負担金全体の算出方法とそのうち本市の負担割合の決定方法)	市の負担割合
団体の決算の概要		平成23年度	
	団体の支出 (千円)	28,762	
	販路拡大活動費	6,555	
	販路開拓資料作成費	3,841	
	スプリングメッセ開催費	12,513	
	6次産業化新商品開発費	2,262	
	その他	3,591	
	団体の収入 (千円)	33,844	
	団体の自主財源	2,544	
	負担金	28,200	
(上記負担金のうち本市の負担額)	500		
その他(負担金以外の国県補助金等)	3,100		
	歳入のうち負担金の割合	83.3%	
	負担金のうち本市の負担割合	1.8%	
団体に関する補足説明	(別途、当該団体・事業の規約又は会則等、平成23年度決算書、平成23年度事業報告書を添付すること。= 決算書・事業報告書が作成されていない場合は、予算書・事業計画書でも可)		
	過去に負担金削減があった場合、その経緯		

Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 負担金形式で事業は事務局の洲本農林水産事務所が主体となっている。国、県の補助事業の活用も事務局が実施しているため、事務的負担は少ない。しかしながら、イベント開催場所等については、県の関連の施設、アクセス、広さ・会場の確保等の理由により、淡路市、洲本市で開催される場合が多いため、野菜の主要生産地である南あわじ市での開催をしていただくようPRしなければならない。			自己評価 (5点評価)						
				5						
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			自己評価 (5点評価)						
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 島外から見れば3市あっても淡路島1つに見える。その中で、淡路島の農水産物の生産者、加工業者、流通業者等、さまざまな主体が連携・協力して豊富な農水産物を活かし、四季を通じた「淡路島」の魅力を発信することは重要であるといえる。									
総合評価	自己評価をふまえた現状分析			5						
	淡路島は万葉の時代、御食つ国として朝廷に海山の幸を納め、新鮮・良質な食材の生産基地としての歴史を持っている。現在も県内の農業生産額の約1/4、漁業生産額の約1/3を生み出す食料基地であることに変わりはない。しかしながら、市場流通においては統一的な産地イメージに乏しく、「淡路島」のポテンシャルを十分に生かしたPRができていないといえない。そこで、「食極めれば淡路島」の旗印のもと、淡路島の農畜水産物・加工食品の生産・流通・消費さらには観光が一体的となって、食料生産拠点としての淡路島の魅力をより一層引き出し、島内はもちろん京阪神・首都圏などの大消費地で新たな需要を開拓するとともに「食」「農」「観光」の連携による新たな淡路島の食文化を創造し、淡路島の活性化を目指しており、その効果は出てきているといえる。									
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用対効果</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>必要性</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> </div>				項目	評価	費用対効果	5	必要性	5	
項目	評価									
費用対効果	5									
必要性	5									

Action & Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成25年度にできる改善・改革	平成26年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>行政や生産者団体等で構成する食のブランド「淡路島」推進協議会にて、さまざまな主体が連携・協力して淡路島の豊富な農水産物を活かし、四季を通じた「淡路島」の魅力を発信することにより、食のブランド「淡路島」のイメージアップと消費拡大、地域の魅力づくりをすすめ、農水産業や地域の振興を図ることを目的として活動している。H24は古事記編纂千三百年のため1,500千円の負担金となっている。H25以降の負担金額については見直しが必要であると考え</p>	<p>行政、生産者団体、商工会、観光協会が一体となって「食」を核として関連業種との連携により地域活性化を図っている。一体となって取り組むことにより、統一した淡路島のイメージを内外に発信することが出来るため、メリットは大きいと思われる。現在は事務局である洲本農林水産事務所が企画・事業実施しているが、今後は、生産者団体・関連企業等が企画立案し、主体的に取り組む仕組みが必要であると思われる。</p>
(現状維持以外の改善方法)	<p>平成24年度事業の古事記編纂千三百年に係る事業と時代の流れにより必要となる事業等を考察して、負担金の金額が妥当かどうか県、島内の2市と協議する必要がある。</p>	
改善によって期待される効果	<p>行政、生産者団体、商工会、観光協会が一体となって取り組むことにより、統一した淡路島のイメージを内外に発信することが出来る。イベントやパンフレットを通しての淡路島のPR。ファンづくり。</p>	
(現状維持の廃止の影響)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>行政や生産者団体等で構成する食のブランド「淡路島」推進協議会は、今までバラバラに活動していたと思われる生産者団体、商工業界、観光業界を「食極めれば淡路島」をキーワードにして、仲人の役割を果たしているといえる。もし、この協議会が解散してしまった場合に、各種業界がそれぞれの方向に向けて淡路島のイメージが固まりにくく、業界の横の連携が出来にくいおそれがある。淡路島全体を見据えて、県が推進し、生産者団体、各業界が負担して活動している事業に淡路島の食の生産地である本市が負担を拒否する理由の方が難しいといえる。</p>	